

秋田県の芸術文化とともに

青木隆吉

(一般社団法人秋田県芸術文化協会 顧問〈前会長〉)



■県芸文協の紹介

はじめに一般社団法人秋田県芸術文化協会（県芸文協）を紹介します。昭和36年5月に創立し、本年で60年の歴史を刻んでおります。秋田県における芸術文化団体の自主的活動の強化促進を図り、芸術文化の普及振興と県民文化の高揚に寄与することを目的にこれまで各種事業を展開してきました。

主な主催事業として「秋田県芸能フェスティバル」「大同書展」「秋田県芸術文化振興大会」「顕彰事業」「秋田県秀作美術展」を開催するほか、県主催の「あきた県民文化芸術祭」を共催し、文化の普及振興に取り組んでおります。

例年の「秋田県芸能フェスティバル」は、会場としてきた県民会館が取り壊され「あきた芸術劇場」が只今建築中のため、平成30年は鹿角市「コモッセ」を会場に、翌31年は「横手市民会館」、昨年は「能代市文化会館」で実施しました。訪問先の皆様と舞台やロビーで親しく交流させて頂き大変実のあるものでした。

「大同書展」は秋田市文化選奨、秋田県芸術選奨を受賞した書道の方々が出品する展覧会で、1年おきに実施しております。

「秋田県芸術文化振興大会」は、県民一人ひとりが芸術文化に理解を深めて頂くことを目的に開催している講演会で、講師には様々な分野で活躍されている方をお招きして実施しています。今年も、秋田県演劇団体連盟顧問の坂本好逸氏による「舞台の裏話」という演題で行い、観客は例年より少なかったものの、興味あるお話に皆さん感銘しておられました。今後も継続していきますので、ぜひ一般の方々にもご参加頂きたいと思っております。

「顕彰事業」の秋田県芸術文化章は昭和44年から実施しており、本県における芸術文化活動において特に顕著な功績及び実績をあげた方を顕彰することによって、後進の意欲を高め活動の奨励をはかることを目的としています。



(秋田県秀作美術展)

「秋田県秀作美術展」は第1回を昭和51年に開催し、以降毎年2月頃、冬の時期に開催してきており、県芸文協に所属している美術関係の部門（洋画、書道、彫刻、工芸、新造形、写真、水墨画、デザイン）の方々の作品を展示しています。今年はソーシャルディスタンスを守りながら県立美術館で開催し、約1,000人の来館者を数えました。

■私と県芸文協との関わり合い

平成15年に私は秋田公立美術工芸短期大学教授（専門はグラフィックデザイン）を定年退職しました。17年に県芸文協の常務理事、その後事務局次長、事務局長、副会長を経て25年に会長に就任、3期6年を務め、現在は顧問です。

県芸文協には15年間の長きにわたり関わってきました。その中で印象に残っていることを挙げてみます。

平成17年に市町村の「平成の大合併」に伴い県芸文協の組織と財政事情が大きく変わったため、対策委員会を設け会費規程を改定しました。

20年には地域文化活動の助成について県知事に陳情書を提出し、以後補助金を交付して頂いております。

22年にはホームページを開設しました。23年には県芸文協創立50周年行事を盛大に行いました。同年、県が国文祭に向けて気運を醸成するために開設した国民文化祭サテライトセンターを、27年からはあきた文化交流発信センター「ふれあーるAKITA」（秋田市、フォンテAKITA6F）と改称し、県芸文協が運営することになりました。この施設は出演希望者が多く、イベントのある土・日曜には毎回たくさんの観客でにぎわっています。

25年度に社団法人から一般社団法人に移行し、より公益性が求められる協会として再スタート、役員については選挙による選出となりました。

26年には「第29回国民文化祭あきた2014」が開催され、県内全域に芸術文化の気運が高まりました。

以上が主な事柄で、私にとって良かった点は、芸術文化に携わる多くの人達と交流が出来たことであり、なによりの財産となりました。



(ふれあーるAKITAでのイベント)

■県芸文協の活動内容と問題点

現在、会員の構成は市町村芸術文化団体23と部門別芸術文化団体40、計63団体で約4万5千人を擁しております。部門別芸術文化団体には、三曲（箏、尺八、三絃）、日本舞踊、謡曲、吟詠、現代舞踊、合唱、吹奏楽などの舞台部門と、美術、書道、工芸、彫刻、写真、デザインなどの展示部門、その他に短歌、俳句、川柳の短詩型文芸、それに華道、茶道などがあります。

加盟団体の中には、会員の高齢化により活動が出来ず、団体としての維持が困難となって止むなく退会に追い込まれるケースがあります。このことが県芸文協にとっても一番の問題であります。また秋田の特産品である銀線細工は、作り手が極わずかになり、このままだと無くなる恐れがあることから、秋田商工会議所が中心となり、今、後継者を育てているところです。八橋人形は作り手が完全にいなくなり、その後有志が名乗りを上げ復活しています。能代の春慶塗りも完全に途絶えたところを秋田公立美術大学の熊谷准教授が立て直すべく研究を進めています。番楽なども熱心な方が子供たちを指導して辛うじて存続しているのが現状です。



(秋田銀線細工 秋田県HPより)

「地域の文化力を高め、文化の力で地域を元気に」の基本理念に基づき、平成26年に秋田県で初めて「国民文化祭・あきた2014」が開催されました。県民・会員の総力で国民文化祭を成功裡に終えたことは大変印象深く感動した事柄でした。これを契機に県芸文協では「秋田の文化財を旅する」という自主事業を新設し、27年から毎年実施しております。「秋田に居ながら知らない秋田がある。もっと秋田のことを知ろう」、と企画した協会員・一般合同による日帰りバスツアーです。見学先は「増田の蔵めぐり」「木都能代めぐり」「民俗芸能の里 烏海めぐり」「なまはげの里 男鹿島めぐり」「阿仁の寺院と森吉山散策の旅」「角館の大村美術館と旧池田氏庭園散歩の旅」などで、これからも続けていきますので、一般の方々にもぜひご参加頂きたいと思えます。

秋田県は、民謡の宝庫でもあり、全国最多となる17の国指定重要無形民俗文化財をはじめ、ユネスコ無形文化遺産に登録された「角館祭りのやま行事」「土崎神明社祭の曳山行事」「花輪の屋台行事」「男鹿のナマハゲ」「鹿角市の大日堂舞楽」など伝統芸能や祭りが数多くあります。しかしこの様な財産がありながら、秋田県は少子高齢化、人口減少が進み少しずつ消えていくことが危惧されます。

そこで打開策の一つとして、平成30年から県芸文協主催による若者文化支援事業を行っています。「若手三曲演奏会と生け花パフォーマンス」「実りと月のデザイン茶会」「世界の民俗文化を楽しむ～にかほ市釜ヶ台番楽とインドネシアのバリ舞踊～」 「美術作家協会若手会員による作品展」などを開催し、いずれも好評のうちに終了しております。

このように伝統芸能は、単に従来のものを次の世代に引き継ぐだけでなく、現代に即したものを取り入れていくことも大切であります。その方法として他の分野とのコラボをするのも一案であり、若い人達に芸術文化に関心をもってもらうことで次に繋がっていくものと考えています。若者達がより美しいものを求め楽しく過ごし、将来の文化の力になってくれるよう期待します。

■コロナによって県芸文協が受けた影響

コロナによりあらゆるものが打撃を受け、芸術文化活動においても大きな影響がありました。昨年の県芸文協の活動は、コロナ対策に細心の注意をしながら、総会以外の事業は例年通り実施しました。総会は書面による議決でした。会員同志の交流の場である忘年会もすべて中止となり本当に厳しくじっと我慢の一年間でした。一方「ふれあーるAKITA」は、一年の前半はイベントを完全に中止しましたが、後半は観客席を制限してイベントをこなしました。自粛期間中は、再開時に役立つためのスキルアップの研修に力を入れてきました。

■秋田県と秋田市の芸術文化活動の取組み

秋田県は、大成功に終了した国民文化祭を一過性に終わらせないために、その後毎年場所を替え横手市、大館市、大仙市、仙北市において伝統芸能の祭典「新・秋田の行事」を実施してきました。他に「あきたの文芸」や「青少年音楽コンクール」にも力を入れています。特に青少年音楽コンクールについては世界的に有名なピアニストを輩出するなど素晴らしい成果を上げています。

特筆すべきことは、秋田県民会館の跡地に県・市連携の文化施設「あきた芸術劇場ミルハス」が只今建築中で、令和4年6月にオープンの予定です。県と市が連携しての文化施設は、全国的にも珍しい取組みであります。今までよりもスケールが大きく、設備の整った2つのホールの誕生を県民が楽しみにしております。オープニング行事は、県芸文協としても総力をあげて、県民が芸術文化に接し幸福感を味わって頂ける夢のあるものにしたいと思っています。



(あきた芸術劇場ミルハス 外観透視図 秋田県HPより)

人間が生きていくためには、芸術文化が心の栄養として絶対に必要であるというコンセプトのもと、秋田市は令和3年3月24日に「秋田市文化創造館」（旧県立美術館）をオープンしました。この施設を活用し中心市街地を芸術文化ゾーンと位置づけ、行政として芸術文化によるまちづくりに力を入れていこうとすることは誠に時宜を得た施策だと思えます。

また秋田市には、東北唯一の公立の美術系四年制大学である秋田公立美術大学があります。新たな芸術の創造、世界に発信するグローバルな人材育成を目指し、秋田の伝統文化を生かし発展させる大学として、県民とともにその活躍を期待したいと思います。

■芸術文化活動に対する県民の理解と支援を

秋田県には音楽、美術、工芸、舞踊、文学などの多くの素晴らしい先人がおられます。その方々の芸術作品を鑑賞したり、自ら創作する喜び、完成したときの達成感を味わってみては如何でしょう。私は以前から篆刻や能の謡に誘われ、現在も稽古を続けています。また短詩型の作品を秋田魁新報の「読者文芸」に応募したりして、コロナ禍の自粛時期でも退屈していません。自分に合った何かを探し求め、仲間と共に芸術文化に関する趣味を持つことをお勧めします。芸術文化に関心のある人の輪が広がり心豊かな秋田県民が増えることを願うものであります。

終りに皆様にお願ひがあります。現在、県芸文協では秋田の芸術文化活動並びに当協会の事業・運営を側面から支援してくださる賛助会員（企業・個人）を募集しています。何卒ご理解を頂き応援の輪を広げて頂きたくよろしくお願い致します。

協 会 概 要

- | | |
|-----------|--|
| 1 名 称 | 一般社団法人 秋田県芸術文化協会 |
| 2 代 表 者 | 会 長 野口 裕子 |
| 3 所 在 地 | 〒010-0001
秋田市中通2-8-1
フォンテAKITA 6F あきた文化交流発信センター内 |
| 4 TEL/FAX | 018-835-3193 |
| 5 U R L | http://www.akita-geibunkyo.net/ |
| 6 設 立 | 1961年（昭和36年）5月 |
| 7 事 業 内 容 | (1) 芸術文化の普及振興
(2) 各種芸術文化事業の開催
(3) 芸術文化諸団体との連絡提携及びその育成
(4) 芸術文化に関する個人及び団体の表彰 |